
くまさん

川島徹也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くまさん

【Nコード】

N9093A

【作者名】

川島徹也

【あらすじ】

ある日、女の子の家にやって来たくまの人形の物語

狭くて暗い箱の中。

右へ左へと揺られながら考える。

ボクはどこへ連れていかれるのだろうか。

期待と不安が入り混じる少し複雑な気持ち。

そして突然眩しい光が差し込む。

小さい手がボクをそっと包み込んだ。

「パパありがとう。大切にするね」

ボクをそっと持ち上げると頬擦りをしてくれた。

とても暖かった。

それがボクとキミとの出会いだった。

それからボクとキミはずっといっしょだった。

遊ぶときはいつも一緒。

テレビを見るのも一緒。

おでかけするときも一緒。

だけど寝るときは別々。

でも寂しくはないよ。

だって友達がたくさんいるもん。

イヌさんとかネコさんとかヒツジさんとか一杯いるんだよ。

でもやっぱりキミと一緒にがいい。

暖かい手でそっと抱きしめて欲しい。

ボクはそれだけで幸せだよ。

散りゆく桜を眺めた春。

せみの声を聞いた夏。

紅く染まった楓のはっぱを集めた秋。

舞う白雪を無邪気に追いかけた冬。

幸せな日々はこれからもずっと続くものだと思っていた……

ボクがこの家に来て2年目の夏の日。

いつものようにキミはちよつと大きい赤のランドセルを背負うとボクの頭を撫でながらこう言った。

「それじゃあ行ってくるね。いい子にして待っててね。」
この一言が最後になるとはそのときは考えもしなかった。

その日キミは帰ってこなかった。

ボクは初めてキミがいない寂しい夜を過ごした。

仲間達もみんな心配したんだよ。

次の日もキミは帰ってこなかった。

次の日も。

その次の日も。

そのまた次の日も……

なぜキミは帰ってこないの？

どこに行ってしまったの？

ただ学校に行くだけじゃなかったの？

ねえ、お願いだから早く帰ってきて。

またぎゅっと抱きしめてよ。

何があったのか分からないけど、ボクはずっと待ってるよ。

キミが帰ってくる日まで……

(後書き)

ちよつと小説と言うより絵本みたいな内容になってしまいました。
これを読んでくださった読者の皆様、評価してくださると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9093a/>

くまさん

2011年1月20日04時11分発行